

妊娠・出産・産褥期の適応行動と親子関係

—ハイ・リスク者のスクリーニングの視点から—

平山宗宏（東大母子保健）

上田礼子・小沢道子（東大母子保健）

池田紀子・中川礼子（東大分院健康相談部）

目的・対象・方法

第1回、第2回の報告書においてすでに述べた如く³⁾⁴⁾⁵⁾、妊娠の確定した女性が、母親行動を獲得していく過程とそれに影響する諸要因を知り、また、新しい事体への適応困難者を早期にみつけ、保健相談に応じることを目的として東大分院を訪れた140名の妊婦（初産68名、経産72名）を対象として追跡調査を開始した。子どもの出生後は生後1カ月時に母親に面接して、「子どもに対する母親の知覚」—Neonatal Perception Inventory 通称NPI—を実施し、生後の7～8カ月時に「育てやすい子どもであるかどうか」を知るために庄司らの翻訳した気質質問紙第1回を実施した。生後の12～18カ月時には発達スクリーニング検査を実施したが、20～27カ月時には小児の気質質問紙第2回を実施し、第1回目との一致率を検討した。さらに、2歳の前期と後期には二度にわたりHome Screening Questionnaire—通称HSQ—を実施し今日に至っている（表1参照）。

結果と考察

図1と2は妊娠・分娩・乳児期および幼児前期の各時点において実施したそれぞれのスクリーニング検査および受診時の医学的所見からハイリスクと判断された者の推移を示している。初産では全ての検査を受けている20名中12名はどこかの時期にリスク者となっていた。注目すべきことは妊娠中は正常であっても分娩から産褥にかけてリスク者になる例（5, 6）、産褥後の育児期にリスク者になる例（1, 2, 3, 8, 9）、子育ての乳児期から幼児初期にリスク者になる例（4, 9, 7, 6）などがあり、それぞれの時期に把握し援助が必要なことを意味していると考えられる。経産も同様の傾向であったが、リスク者の割合は42%であり、育児経験が反映されているようであった。

表2は乳児期と幼児期に実施した気質質問紙の一致率が39%にすぎなかったことを示しており表3は満2歳前後と満3歳前後とに実施したHSQの一致率が52.0%にすぎなかったことを示している。著者らは以前の研究において知的発達に関し乳児期の発達指数と幼児期の発達指数と幼児期以後の発達指数、知能指数との関係は必ずしも高くなく、それぞれの時期に発達の評価を必要とすることを指適したが⁶⁾、これらの結果は母子関係の側面にも類似のことが確認されたことを意味している。

表4はこれらの結果に基づいて57年度に新たに作成した産褥期のリスク者スクリーニング用質問紙の実施結果を示している。昭和57年4月から東大分院産科病棟に分娩のため入院した褥婦を対象として質問紙を実施し退院前に回収した。質問紙の内容は家族の相互作用に関するものであり、母親の性格傾向に関する14項目、母親の幼少時の父母との関係に関する16項目、乳児との関係に関する10項目、現在の生活に関する8項目、退院後の生活に関する4項目であった。表4の数字は140名中に占める各項目の割合を示している。そして被験者が表の右側の15項目に該当する場合に項目毎に得点として1点を与え、個人毎の得点を算出すると140名のうち0点112名、1点3名、2点17名、3点3名、4点0名、5点3名、不能2名であった。次に、1～5点までの者について追跡調査を実施した結果、4点以下の者には特に問題は認められなかったが、5点の者の中にはすでに妊娠中から適応上の問題があって、自発的に健康相談部を利用している者（1名）が含まれていた。以上の検討結果からこの質問紙のスクリーニング基準は一応5点と定め、5点以上の者を親と子どもとの相互作用に潜在的問題をもつ家族として把握し、介入をはかることが望まれる。なお、これらの者は対象者全体の3.6%にすぎず、

第二次スクリーニングの対象者として面接を必要とする。

表1. 研究計画(1)	対象；初産，経産
妊娠初期	面接
妊娠中期	心理検査
妊娠後期	面接
出産	
産褥1ヵ月	面接 新生児知覚検査 Neonatal Perception Inventory
小児の7～8ヵ月	第1回小児の気質調査 (郵送法と面接法)
小児の12～18ヵ月	発達スクリーニング検査 (JPDQ→JDDST-面接) 面接
小児の20～27ヵ月	第2回小児の気質調査
小児の25ヵ月	第1回HSQ 第2回PDQ
小児の33ヵ月	第2回HSQ

表2. 気質-1回目と2回目との関係

24ヵ月 8ヵ月	EASY	DIFFICULT	その他	不明	計
EASY	5	1	11	6	23
DIFFICULT	0	2	2	1	5
その他	11	3	11	14	39
計	16	6	24	21	67

一致率；39.1%

表3. HSQ-1回目と2回目との関係

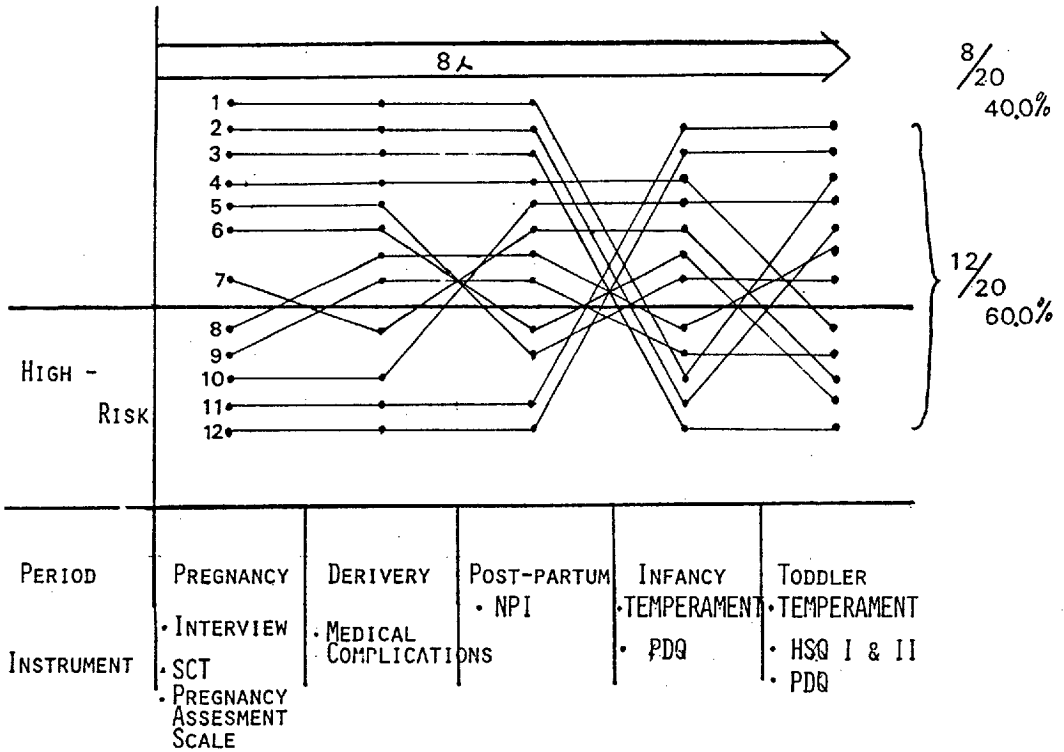
平均25カ月 平均33カ月	~18 (低)	19~23 (中)	24~ (高)	計
~20 (低)	2	5	0	7
21~28 (中)	4	22	8	34
29~ (高)	0	7	2	9
計	6	33	10	50

一致率；52.0%

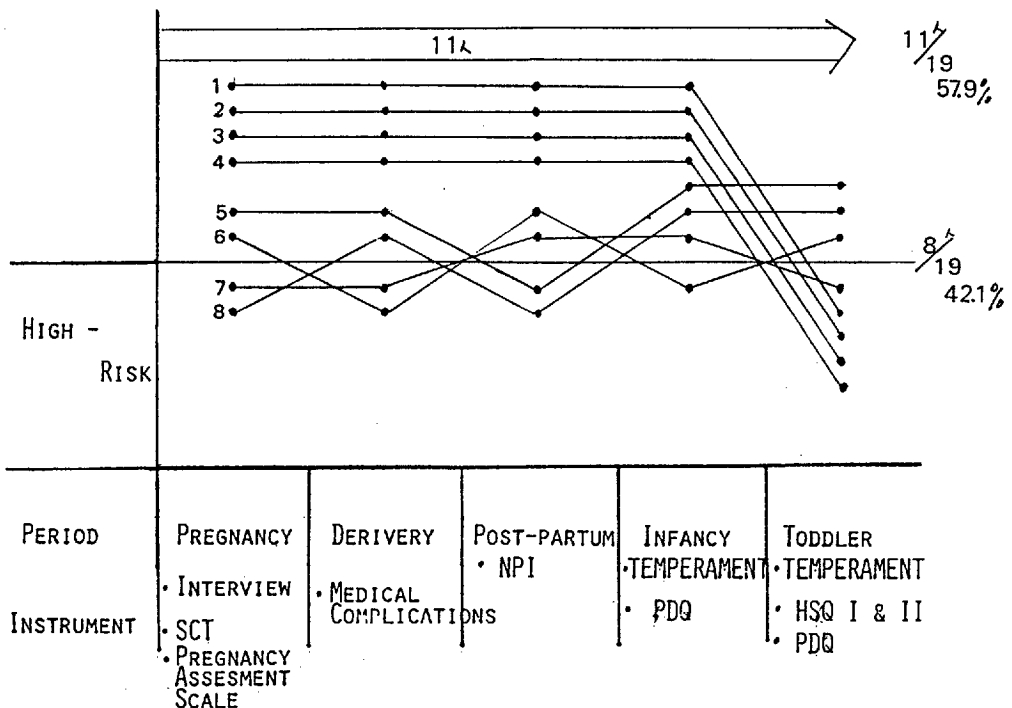
表4. A PREDICTIVE SCREENING QUESTIONNAIRE FOR POTENTIAL PROBLEMS IN FAMILY INTERACTION

分類	項目	内容	頻度
性格傾向 1項目	心配症である …… 47.1	腹が立つと抑えられない …… 3.6	1点
	他 13項目		
幼少時の 父母との 関係 3項目	父 やさしかった …… 45.7	ひどくぶたれた …… 2.7	1点
	他 7項目		
	母 やさしかった …… 62.1	ひどくぶたれた …… 0.7	1点
	他 7項目	心からかわいがってくれなかった… 2.7	1点
乳児との 関係 4項目	お乳をあげるのは楽しい… 85.0	いいえ …… 4.3	1点
	乳児は期待どうり …… 73.0	いいえ …… 12.1	1点
	世話はうまくできそう …… 57.1	いいえ …… 2.1	1点
	乳児が生まれてうれしい… 97.9	困っている …… 0.7	1点
現在の生活 5項目	経済的に楽である …… 16.4	困っている …… 2.9	1点
	夫 健康である …… 94.3	病気をもっている …… 0.7	1点
	他 7項目	何度も転職している …… 0.7	1点
	妊娠 今回は計画どうり …… 55.0	夫に気がかりなことがある …… 10.0	1点
	他 2項目	いいえ …… 12.1	1点
退院後 の生活 2項目	乳児は入院を継続する …… 3.6		1点
	帰宅後手助けする人いる… 83.6	いない …… 16.4	1点
計 15項目			

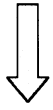
数字；140人中の%を示す。



☒ 1. PREVERENCE OF RISK IN EACH PERIOD PRIMIPAROUS WOMEN

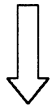


☒ 2. PREVERENCE OF RISK IN EACH PERIOD MULTIPAROUS WOMEN



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的・対象・方法

第1回,第2回の報告書においてすでに述べた如く,妊娠の確定した女性が,母親行動を獲得していく過程とそれに影響する諸要因を知り,また,新しい事体への適応困難者を早期にみつけ,保健相談に応じることを目的として東大分院を訪れた140名の妊婦(初産68名,経産72名)を対象として追跡調査を開始した。子どもの出生後は生後1ヵ月時に母親に直接して,「子どもに対する母親の知覚」- Neonatal Perception Inventory 通称 NPI-を実施し,生後の7~8ヵ月時に「育てやすい子どもであるかどうか」を知るために庄司らの翻訳した気質質問紙第1回を実施した。生後の12~18ヵ月時には発達スクリーニング検査を実施したが,20~27ヵ月時には小児の気質質問紙第2回を実施し,第1回目との一致率を検討した。さらに,2歳の前期と後期には二度にわたり Home Screening Questionnaire-通称 HSQ-を実施し今日に至っている(表1参照)。